

ボスニアへ 調査団出発

AMDA

戦火や災害に苦しむ人々の医療救援を続けている非政府機関（NGO）「アジア医師連絡協議会」（AMDA、菅波茂代表、本部・岡山市）は、昨年末に和平協定が調印されたボスニア・ヘルツェゴビナの現地情勢を調査するため、二十四日、調査団を出発させた。調印後のボスニア入りは日本のNGOとして初めて。

AMDAは、一九九四年

三月から旧ユーゴスラビアのクロアチア、セルビア国内六か所で約三十のプロジェクトを実施してきたが、ボスニアにはこれまで入国できなかった。しかし和平協定が調印され、現地の病院から派遣要請を受けたことから調査団を派遣することにした。

予定ではあす二十五日、ウィーン経由で現地入りし、来月十日まで、ボスニアの首都サラエボ周辺などを調べる。調査結果に基づいて、春以降、医師団などを派遣することにしていく。